２　木造四天王立像（もくぞうしてんのうりゅうぞう）　４躯　　［有形文化財（彫刻）］

［所在地］　生駒市高山町

［所有者］　法楽寺

［法　量］　像高 109.6cm～113.2cm

［時　代］　平安時代中期～後期

［概　要］

生駒市の北端、高山に所在する古刹・法楽寺に伝来した四天王立像。

ともにクスノキとみられる広葉樹材の一木造であり、うち２躯は前後に割り矧（は）いで内刳（うちぐ）りの上、割首（わりくび）を施すのに対し、その他の２躯は内刳りを施さない重厚なつくりである。２組の構造の違いは、作風にも表れている。前者は、全体の抑揚を減じて穏やかなまとまりをみせる 12 世紀頃の特徴を備えているが、後者は、頭部が小ぶりで、量感のある体躯を堂々と構え、その彫り口も入念であり、前者の制作をさかのぼる古い要素を見いだすことができる。

４躯が当初から一具の四天王像として制作されたとは言い切れないが、同じ用材を用いたほぼ同寸の天王像であることから、近しい制作環境下にあったことが想定される。各像の台座裏には延享（えんきょう）4 年（1747）の修理銘があるが、一具としての安置はさらに古くにさかのぼる可能性が考えられよう。

県内の未指定の四天王像としては、出色の出来を示しており、平安時代までさかのぼる貴重な作例として高く評価される。